



砂時計のオリフェイス細く冬に入る	辻 美奈子
煮凝や破裂しさうな黙と黙	千田 百里
ピアノには森の静けさ冬昂	今瀬 一博
釣瓶落しの鉄臭さ残しゆく	甲州 千草
昼灯し雨にはじまる一の酉	吉田 政江
冬暁の不思議な静寂夫逝けり	田所 節子
灯台は放下のかたち小春風	大沢美智子
小春日や調律ねむくなる音色	栗原 公子
逆しまに干され火となる唐辛子	林 昭太郎
着地まで夢のただよひ朴落葉	藤原 照子
歳の差の老いて縮まりとろろ汁	成宮紀代子
わが住み処かつて浦とふ八重霞	千田 敬
本箱にかすかな木の香秋の夜	楠原 幹子
金木犀明るき香氣とふ呪文	平松うさぎ
山茶花の咲きつなぎつつ零れつつ	森村 江風
鬼の子のふらり父親参観日	小林 陽子
割印に微かな段差秋深し	下村たつゑ
空の色入れて遙けし凍滝は	菊川 俊朗
ちびちびと酒ほくほくと衣被	川高郷之助
鶏締めしむかし鎌上ぐ日なりけり	井原 美鳥
並走の快速離れゆく秋思	七田 文子
朝寒や半音上がる街の音	稗田 寿明
白神の太き遠吠星月夜	木村あさ子
鷹消えて阿弓流為の名を残したる	栗坪 和子
耳朶に痛点霜月の始まれり	兵藤 恵
蓮の実とぶ音全きに水ゑくほ	大橋 松枝
荒波を統ぶる鯨の尾の太し	澤田 英紀
残照に映ゆる芒の踊る影	浜崎喜美子
鈍色の湾に日矢差す片時雨	牛島 晃江
雪吊の絞る一点空に置き	坂下 成紘

沖 の 水 脈

